

# 令和7年度 大津市立大石小学校いじめ防止基本方針

はじめに

2011年（平成23年）の市内中学生が自ら命を絶たれた痛ましい事案以降、このような悲しみを再び繰り返してはならないという強い決意のもと、大石小学校においては、いじめ防止対策推進法（以下「法」といいます）、大津市子どものいじめの防止に関する条例（以下「条例」といいます）、大津市いじめの防止に関する行動計画に基づき、いじめの「未然防止」「早期発見」「早期対処」を柱に、いじめ問題に対する対策を進めてきました。

条例には、以下のような基本理念が定められています。

「全ての子どもは、かけがえのない存在であり、一人一人の心と体は大切にされなければなりません。子どもの心と体に深刻な被害をもたらすいじめは、子どもの尊厳を脅かし、基本的人権を侵害するものです。しかしながら、いじめはいつでもどこにおいても起こりうると同時に、どの子どももいじめの対象として被害者にも加害者にもなり得ることがあります。このようないじめを防止し、次代を担う子どもが健やかに成長し、安心して学ぶことができる環境を整えることは、全ての市民の役割であり責務です。」

この基本理念に則り、大石小学校では、過去の反省を忘れることなく、子どもの声や主体性を大切にしながら、地域社会全体で、いじめ対策に取り組んでいくことが重要であると考え、本校のいじめ防止基本方針を定めました。

全ての子どもたちが安心・安全に学校生活を過ごす事ができ、一人ひとりの笑顔が輝く学校づくりを進めるためにも、学校組織全体で、以降に示す取組を進めます。

## 目次

- 1 いじめ問題に関する基本的な考え方・・・・・・・・・・・・・・・・
- (1) いじめの未然防止
- (2) いじめの早期発見
- (3) いじめへの対処
- 2 「いじめ対策委員会」の設置・・・・・・・・・・・・・・・・
- (1) 役割
- (2) 構成員
- (3) 関係する校内委員会等との連携
- (4) いじめ事案対応フロー図
- 3 その他いじめの防止等のための対策に関する重要事項・・・・・・・・
- (1) 基本方針、年間計画の見直し
- (2) 基本方針、年間計画の公開・説明
- 4 いじめ防止等に向けた年間計画・・・・・・・・・・・・・・・・
- 5 その他（資料等）・・・・・・・・・・・・・・・・

## 1 いじめ防止等のための対策の基本的な考え方

いじめ問題に取り組むにあたっては、「いじめ」にはどのような特質があるかを十分に認識し、日々「未然防止」と「早期発見」に取り組むとともに、いじめが認知された場合の「早期対処」に的確に取り組むことが必要であると考えます。法では、「いじめ」を以下のように定義されています。

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人間関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

本校では、このいじめの定義に基づき、「未然防止」「早期発見」「早期対処」に関する以下の内容について、組織的に進めます。

### (1) いじめの未然防止

いじめはどの子どもにも、どの学校でも、起こりうるものであることを踏まえ、より根本的にいじめの問題を克服するためには、すべての児童を対象としたいじめの未然防止の観点が重要です。

このため、本校では、すべての児童が、より良い人間関係を構築できるような態度を育むことで、いじめを生まない環境づくりを進めます。また、家庭、地域その他の関係者に対し、学校での取り組み内容を説明し、協力を求めることで、地域社会が一体となった取組を進めます。

取組の基本となるのは、児童が、周囲の友人や教職員と信頼できる関係の中、安心・安全に学校生活を送ることができ、規律正しい態度で授業や学校行事に主体的に参加・活躍できるような授業づくりや集団づくり、学校づくりを行っていく事であると考えています。学校のあらゆる教育活動の中で、すべての児童が自己存在感を感じ、自己決定の場を与えられ、共感的関係を育てる機会を設けることを大切にし、互いを認め合える人間関係・学校風土の醸成に努めます。加えて、児童自らがいじめについて学び、取り組む等の自主的・自治的な活動を積極的に支援し、児童一人ひとりが主役となる学校づくりも進めます。

そうした未然防止の取り組みについては、日常的な児童の行動の様子や欠席の状況を把握し、その状況に応じ、随時見直しを図ることで、より充実した取組を進めます。

については、上記のことに関して、本校では、以下のような取組を進めます。

### ① 子どもの主体的な参画

No.	行動計画の具体的取組	取組目標
34	いじめ防止啓発月間を中心とした子ども主体の取組の推進	各委員会において、「あいさつ」「清掃活動」「丁寧な言葉使い」など、校内生活目標に合わせた活動を行う。生活委員会では生活目標を伝える放送を企画する。また、クラスや学校全体で力を合わせて取り組めるイベントを企画し、そのがんばりを放送で伝えたり、表彰したりする。

35	学校・学級及び個人のいじめ防止に関する取組目標の設定	運営委員会が中心となって、子ども目線で見つけたよい行いを、学校掲示板に載せたり放送で知らせたりする。学級毎に、「友だちの良いところ」を朝の会や帰りの会、係活動などを通じて発表することを広めていく。
----	----------------------------	--

## ② 子どもに対する教育・啓発

No.	行動計画の具体的取組	取組目標
36	いじめが許されないことを理解し、子どもの解決力を育むための教育の推進	専門家を招いて特別授業を実施して、いじめのことをしっかりと考える機会を設ける。どのようなことがいじめにあたるのか、児童と考える機会を設ける。
37	インターネット上のいじめ防止を含む情報モラル教育の実施	どの学年にも「GIGA3か条」を指導し、教室に掲示する。4・5・6年生については外部講師を招き、ネットいじめ防止のための学習を実施する。GIGAワークブックを活用し、全学年で情報モラル教育を計画的に実施する。
38	相談することの大切さに関する啓発	子どもたちに対し、悩んだときに学校の教職員や保護者など身近な大人に聴いてもらい、自分が一番相談しやすい方法で相談して、解決方法を考えていくことの重要性を伝える。
39	子どもの心を豊かにする道徳教育の推進	いじめを解決するために、子どもの意識を磨く。そのために、道徳科学習や人権学習では、子どもたちが考え、対話する時間を確保し多様な考えがあることに気づくように学習を展開する。そして、いじめに気づき、行動できる子どもを育てる。
40	自他ともに認め合う人権教育の推進	学習内容の感想やふりかえりなど、児童の思いを書き留める活動を大事にし、道徳科学習や人権学習の充実を図る。
41	分かりやすい授業づくり・子どもの存在や意見が尊重される学級づくりの推進	教師も子どもも丁寧な言葉遣いをするを大切にしながら、学級づくりを進めていく。 授業改善の方法として、どの子にもわかる授業をめざすために視覚に訴える学習や子ども同士が学び合える活動を多く取り入れる。さらに、教師同士が積極的に授業を公開し研究を深める。
42	思いやりの心を育てる異年齢交流の推進	5・5交流（5年生と大石幼稚園の5歳児）や南郷中学校2年生と6年生との交流、6年生が南郷中学校での授業に参加等、幼児、児童、生徒同士の交流を深める。また、縦割り活動を実施し学年間の交流を行う。

### ③ 教員に対する研修・支援

No.	行動計画の具体的取組	取組目標
43	学校いじめ防止基本方針の策定、保護者・地域への周知	学校のホームページに於いて、本校の「いじめ防止基本方針」を公開する。 学校だより「鹿跳」の書面にて周知を図る。
44	保護者・地域に向けた子ども支援コーディネーター等学校への相談の呼びかけ	学校だより「鹿跳」やホームページなどで子ども支援コーディネーター等の周知を図る。教育相談だよりに於いて学校への相談を呼びかける。
45	いじめ対策に関する校内研修の実施	職員にもいじめ防止基本方針を周知する。 夏期休業期間中に、南郷中学校区でいじめ防止について講師を招いて研修を実施する。校内でもいじめ対策の研修を行う。
46	いじめ事案への対応体制の整備及びいじめ事案に対応する教員への組織的な支援の充実	毎週月曜日に全職員参加の下、いじめ対策委員会を実施し、いじめについての共通理解、早期発見、早期対応に努める。

### ④ その他（学校独自の取組）

取組目標
民生委員・児童委員協議会と連携し、休み時間や授業時間の見守り活動を行う。
年度初めに子ども支援コーディネーターが、全学級を周り困ったときには相談することや、友だちと生活する時に気をつけることを伝える。

\*学校いじめ防止基本方針は、「大津市いじめの防止に関する行動計画」に位置付ける取り組みのうち、学校が実施する施策の取組目標を記載しています。NO. 1～33の取り組みは、市・市教育委員会が実施する施策です。

#### (2) いじめの早期発見

いじめは、大人の目に付きにくい時間や場所で行われたり、遊びやふざけあいを装って行われたりするものです。しかしながら、いじめやその疑いを見逃してしまうと、より深刻な状況を招いてしまいます。そのようなことから、本校では、たとえささいな兆候であっても、いじめではないかとの疑いを持って、早い段階から学校のいじめ対策委員会が中心となり積極的に対応します。

そのためには、多くの大人が児童の小さな変化に気づく、鋭い観察力を高めることが必要です。このため、本校では、日頃から児童の様子をしっかりと見守り、教職員間で定期的に共有します。わずかな兆候であっても、背景にいじめがあるのではないかとの疑いを持って、いじめ対策委員会で対応について協議します。その上で、いじめを軽視することなく、事実関係に基づいて積極的に認知します。その際、個々の行

為がいじめに当たるか否かの判断は、表面的・形式的にすることなく、いじめを受けた児童の立場に立って行います。

また、児童または保護者が、抵抗なくいじめに関して相談できるよう、学校は、定期的なアンケート調査や定期的な教育相談を実施し、いじめの実態把握に取り組みます。それとともに、児童または保護者が日頃からいじめについて相談しやすい雰囲気づくりに努めます。また、学校が家庭と緊密な連携をすることにより、学校と保護者との間の情報共有をし、児童生徒の状況をきめ細かに把握するよう努めます。

加えて、より多くの大人が児童の悩みや相談を受け止めるため、保健室や相談室の利用、関係機関の開設している相談窓口について広く周知するとともに、地域関係団体や保護者に対しても協力を求めます。

については、上記のことに関して、本校では、以下のような取組を進めます。

### ① いじめに関する情報収集

No.	行動計画の具体的取組	取組目標
47	いじめ等の早期発見のための定期的なアンケート調査の実施	学期ごとに、アンケートを実施する。また、保護者や子どもたちのいじめに対する意識の変化を知る。そのアンケートをもとに「子どもと語る会」を実施し各学級で担任と児童が面談をする。さらに、5月・9月・1月にミニアンケートを行い、いじめの早期発見につなげる。
48	いじめ等の悩みの把握及び教育相談の実施	ミニアンケートや生活アンケートをもとにして「子どもと語る会」を実施し、気になる子どもや保護者を教育相談につなげ、SCと連携していく。
49	教職員による校内及び校門等における見守り活動の実施	長休み、掃除時間、昼休み等学習以外の時間に校内巡回をし、児童への声かけ、学習環境の整備（整理整頓）を行う。朝のあいさつ運動や、下校指導等で児童の安全を見守る。
50	日頃からの家庭との連携及び情報交換の実施	子どもの様子を気になることだけでなく良いことについても日ごろから連絡をして保護者との関係を密にする。また、保護者からの情報をもとに子どもの様子を観察し、いじめの早期発見につなげる。また、おたすけ隊として昼休みにPTAや地域の方々に校内の見回りをしてもらう。

### ② いじめに関する情報共有

No.	行動計画の具体的取組	取組目標
51	子ども支援コーディネーターを中心としたいじめの疑いを含めた様々な課題に関する情報の集約・情報共有	毎週月曜日のいじめ対策委員会（子どもを語る会）で、出された情報を集約し、全職員で共通理解を図る。気になる事案については、学級担任や学年部と連携し、早期発見、組織的な早期対応に努める。



52	いじめの疑いの段階での翌授業日中の教育委員会への速報	学校で把握したいじめの疑い事案（いじめかどうか確認できていない事案を含む）については、学校で「いじめ対策委員会」を開催し、組織的に情報共有・対応方針の検討を行った上で、迅速に教育委員会に事案概要を報告する。
53	保幼小中の連携や学年を超えた情報共有の推進	保幼小中の連携をきめ細かく行う。入学前後にも計画的に連絡会を開き、連携を密にしていく。

### ③ その他（学校独自の取組）

取組目標	
南郷中学校区内の学校園に在籍する生徒・児童・園児がいじめ事案の被害側・加害側に当たる時は、できるだけ早く知り得た事実を共有しながら、学校園間の連携を図る。	
学期ごとに「子どもと語る会」を実施し、全職員が子どもの様子について共通理解する。	

#### (3) いじめへの対処

本校では、教職員がいじめと疑われる場面を発見・通報を受けた場合には、一人で抱え込むことなく、速やかにいじめ対策委員会を中心とした組織で対応をします。被害を受けた児童を守り通すとともに、教育的見地から、毅然とした態度で加害児童を指導します。その際、謝罪や責任を形式的に問うことに主眼を置くのではなく、社会性の向上等、児童の人格の形成に主眼を置いた指導を進めます。

例えば、遊びや悪ふざけなど、いじめと疑われる行為を発見した場合、教職員はその場でその行為を止めます。また、児童や保護者から、「いじめではないか」と相談や訴えがあった場合には、真摯に傾聴し、被害を受けている児童や相談のあった児童の安全を確保します。

特に、インターネット上のいじめへの対応については、大津市および大津市教育委員会が作成している「インターネット上のいじめに関する対応マニュアル」に基づいて対応します。

いじめ対策委員会では、いじめの疑いがあった場合、直ちに情報を共有し、速やかに関係児童から事情を聴き取るなどして、いじめの事実の有無の確認を行います。事実確認の結果は、校長が責任を持って大津市教育委員会に報告するとともに、被害・加害児童の保護者に連絡します。

なお、児童生徒の生命・身体又は財産に重大な被害が生じる恐れがあるときや、いじめが犯罪行為として取り扱われるべきと認めるとき、もしくは、指導を行ってもいじめ行為が止まないときなど、学校がいじめられている児童生徒を徹底して守り通すために必要と判断する場合は、所轄警察署等関係機関や、心理や福祉等の専門家と相談し、連携して対処を進めます。

このため、すべての教員の間で、いじめを把握した場合の対処のあり方について共通理解を図るとともに、迅速かつ的確に対処できるよう、平素から関係機関との連携

に努め、情報共有する体制を構築します。

については、上記のことに関して、本校では、以下のような取組を進めます。

### ① いじめの対処

No.	行動計画の具体的取組	取組目標
54	「いじめ対策委員会」の開催を通じた組織的な対応	いじめ事案が疑われた時は、担任だけではなく、子ども支援コーディネーター・生徒指導主任等が複数で聞き取り、被害児童と加害児童の両者の話に食い違いがないかを確認し、客観的事実を明らかにし、「いじめ対策委員会」でその後対応を検討する。
55	いじめ事案の解決に向けた対応（被害の子どもへの支援・加害の子どもへの指導等）	複数の教員で聞き取りを行い、被害児童に寄り添い指導していく。また加害児童に対しても、いじめてしまった背景をしっかりと聞き取り、今後に目を向けた指導をしていく。
56	インターネット上のいじめへの対応	被害の実態を正確に知る。被害児童と加害児童両者から事実を聞き取る。加害児童の保護者にも事実を伝え原因の究明を図る。場合によっては、関係機関に協力を要請する。両者の人間関係を損なわないように配慮しながら同じいじめが二度と起こらないよう指導を行う。
57	重大ないじめ事案が発生した際のアンケートや聞き取りによる適切な調査の実施	被害児童の在籍する学級の児童に対してアンケートを行い、まだ知り得ていない事実を収集する。その後、アンケートを基に事実の確認を行う。加害児童が明らかの場合には、加害児童の在籍する学級でも同様の取組をする。また、他学年に被害、加害児童がいる場合には、当該学年においても同様にアンケートを実施する。
58	いじめ事案に関する情報の適正な管理・保存	いじめ事案に関する情報が記載された文書については、公文書として適切な管理及び保存（5年保存かつ当該児童が卒業するまで）を徹底し、教職員間で管理・保存について共有する。
59	いじめ事案が生じたときの保護者との連携	被害児童の保護者に事案に関する事実を伝える。加害児童の保護者にも事実を伝え原因の究明を図る。両者の人間関係を損なわないように配慮しながら同じいじめが二度と起こらないよう指導を行い、保護者にも協力を依頼する。

### ② その他（学校独自の取組）

取組目標
学校側からの連絡内容が、当該の保護者に正確に伝わるように複数対応による家庭訪問や電話連絡を行い、慎重に対処する。

日々起こるいじめ事案やけんか、不登校児童の経過報告などについて、「報告・連絡・相談 シート」に概要を記入し、回覧する。さらに、毎週月曜日全職員参加の下、いじめ対策委員会を実施する。その際、学級の様子を各担任が報告し、子どもの様子についての共通理解やいじめの早期発見、早期対応につなげる。

## 2 いじめ対策委員会の設置

本校では、いじめの防止等に関する措置を実効的に行うため、法第 22 条に規定される組織として「いじめ対策委員会」を常設します。その役割等については、以下のとおりとします。

### (1) 役割

- ア) いじめの防止等の取組の年間計画を作成する
- イ) いじめの防止等の取組について、すべての教職員間で共通理解を図る
- ウ) いじめの防止等の取組の実施、進捗状況の確認を行う
- エ) 児童や保護者、地域に対し、いじめの防止等の取組についての情報発信やいじめに関する意識啓発のための取組を行う
- オ) いじめの疑いや児童の問題行動などに関する情報の収集と記録、共有を行う
- カ) いじめの疑いに関する情報があった時には緊急会議を開催し、いじめの情報の迅速な共有を図り、教職員や関係のある児童等への事実関係の聴取、児童に対する支援・指導の体制・対応方針の決定と保護者との連携等の対応を行う
- キ) いじめとして対応すべき事案か否かの判断を行う
- ク) 重大事態に係る調査の母体となり調査を行う
- ケ) P D C A サイクルに基づき、毎年度、いじめの防止等の取組の検証を行うとともに、その結果等を勘案して、必要に応じて学校いじめ防止基本方針の見直しを行う

### (2) 構成員

いじめ対策委員会の構成員は、管理職、主幹教諭、教務主任、子ども支援コーディネーター、生徒指導主事（主任）、教育相談担当、養護教諭、スクールカウンセラーとします。

なお、個々の事案に応じて、関係の深い教職員を追加します。

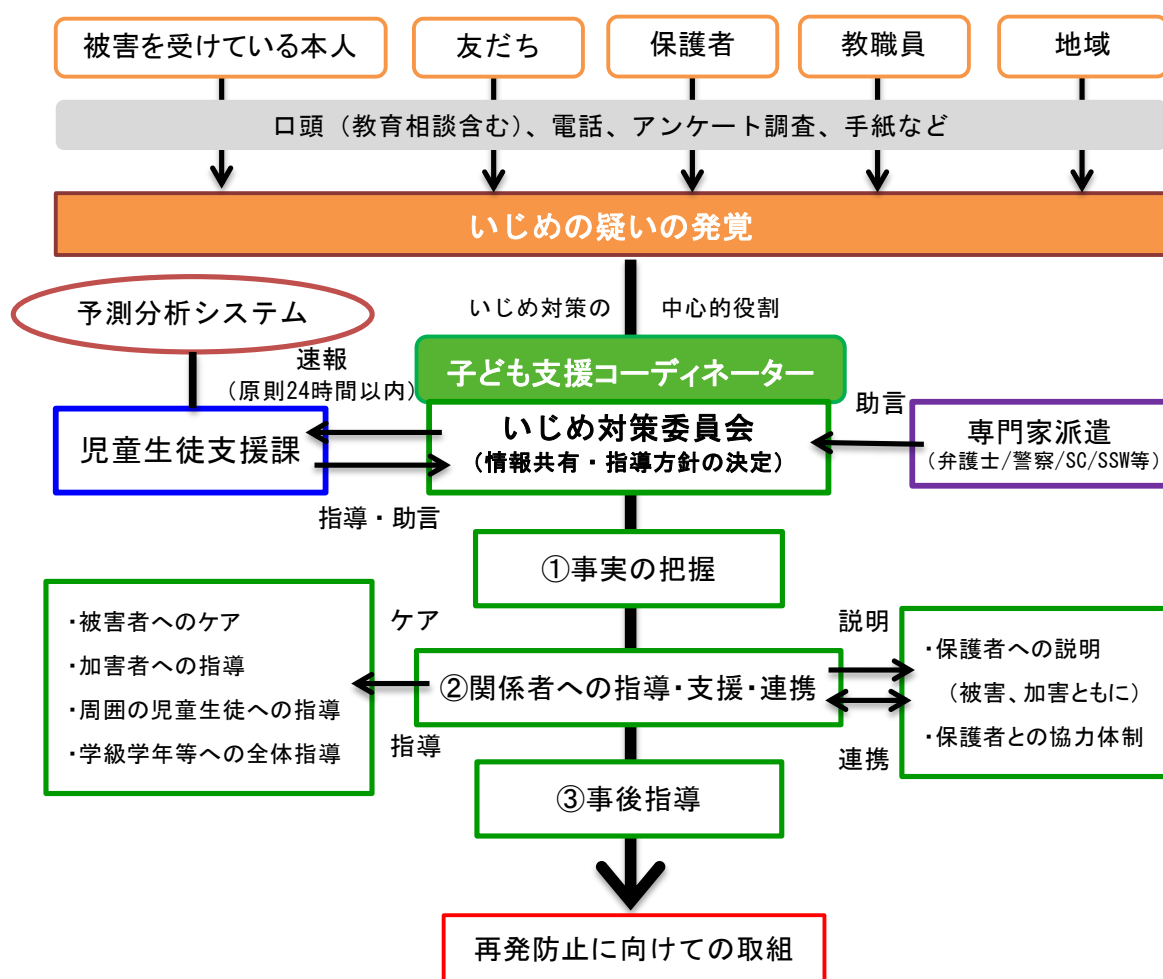
また、事案の性質等、必要に応じて、心理や福祉の専門家、弁護士、医師、警察官（もしくは警察官 O B）・教員経験者など外部専門家の参加を得ます。

### (3) 関係する校内委員会等との連携

いじめの防止等の取組の実施に当たっては、生徒指導委員会、教育相談部会、人権教育部会等と役割分担し、連携して取り組みます。



(4) いじめ事案対応フロー図



(2) 学校のいじめ防止対策全般や基本方針の進捗状況の評価等を協議するため、「拡大いじめ対策委員会」を設置します。

その構成員は校長、教頭、教務主任、子ども支援コーディネーター、生徒指導主事等の学校教職員の他、PTA会長、自治連合会会長、青少年育成学区民会議会長、主任児童委員等の学校関係者とします。

### 3 その他いじめの防止等のための対策に関する重要事項

(1) 基本方針、年間計画の見直し

具体的な施策ごとに設定した目標について、その進捗状況を定期的に確認し、目標の達成状況（活動実績）を自己評価し、その結果について年度末に大津市教育委員会へ報告しています。また、評価に際しては、目標の達成状況（活動実績）を評価するとともに、それらの取組がいじめ防止にどのような効果があったのかについて考察し、取組内容や方法の見直しを検討します。このような取組を通して、策定した学校基本方針や年間計画をPDCAサイクルに基づき、毎年度見直します。

(2) 基本方針、年間計画の公開・説明

策定した学校基本方針や年間計画は、学校のホームページなどで公開するとともに、年度当初に子どもや保護者、地域関係者にわかりやすく説明します。

#### 4 いじめ防止等に向けた年間計画（例）

月	活動内容・取組	備考
4	職員会議〈児童生徒理解〉（①・②・③） 校内研修（①・②・③） いじめ相談窓口の紹介（①・②） 子どもを語る会（①・②・③）	いじめに関連した内容を全職員の共通理解
5	個別懇談会（②・③・④） ミニアンケート実施（①・②・③） 学校だより（①・④）	
6	いじめ防止啓発月間（①・④） 生活アンケート実施（①・②・③） 子どもと語る会（②・③） 学校運営協議会（④） 専門家によるいじめ授業（①・②・③）	児童会を中心にした取組の実施
7	学級懇談会（④）	
8	いじめ問題に関する校内研修会（①・②・③・④）	児童の多様性理解に関連した研修
9	ミニアンケート実施（①・②・③） 身体測定（②） 学校運営協議会（④）	
10	いじめ防止啓発月間（①・④） 生活アンケート実施（①・②・③） 子どもと語る会（①・②・③） スマホネット安全教室（①・②・③）	児童会を中心にした取組の実施 情報モラル教育の実施
11	個別懇談会（②・③・④） ミニアンケート実施（①・②・③）	
12	道徳参観（①） 学校運営協議会（④）	
1	身体測定（②） ミニアンケート（①・②・③）	
2	教育相談週間（②・③・④） 生活アンケート実施（②・③） 子どもと語る会（①・②・③） 学級懇談会（④） 学校運営協議会（④）	
3	児童引継ぎ（①・②・④）	

年間 を通 じて	いじめ対策委員会 (①・②・③) 朝のあいさつ運動 (①・②・③・④) 下駄箱チェック (①・②) トイレのスリッパチェック (①・②) いじめ対策委員会 (①・②・③) SC による相談 (①・②・③・④) 児童のがんばりを掲示すること (①・②・③)	
----------------	---	--

※いじめの未然防止に関すること…①

いじめの早期発見に関すること…②

いじめの早期対応に関すること…③

いじめ防止に関する家庭・地域・関係機関等との連携に関すること…④